
2020年度決算公表 未来を見据えた重要課題

2021年5月7日

三菱商事株式会社

垣内 威彦

2020年度決算公表

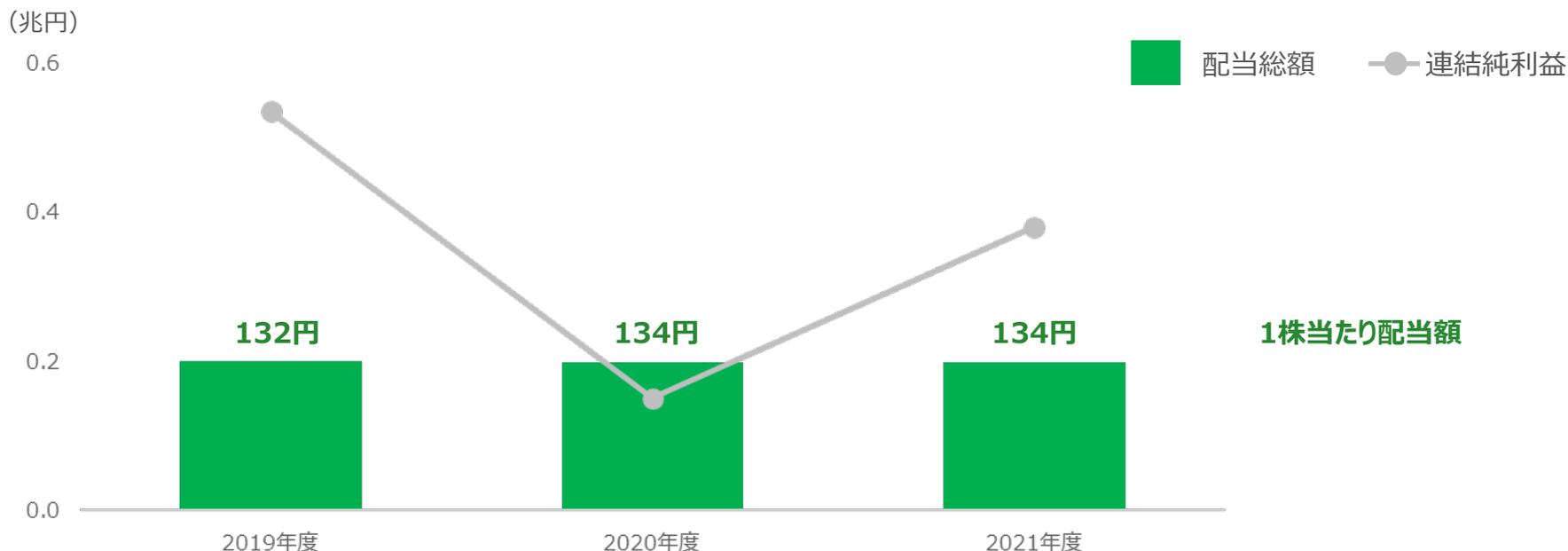
1 業績/株主還元方針

2020年度実績は、大口損失の計上などにより、業績見通しは未達となったものの、事業ポートフォリオは環境変化への耐性を維持していることから、累進配当を継続

- 2020年度 実績 : 1,726億円 配当 : 134円
- 2021年度 見通し : 3,800億円 配当見通し : 累進配当制の下、134円

【株主還元】

累進配当の継続により、中期経営戦略2021期間の配当総額は0.6兆円を見込む



2 「未来を見据えた重要課題」への取組について

デジタル化や低・脱炭素社会に向けた潮流が加速する中、変化への対応力を発揮してDX（デジタルトランスフォーメーション）とEX（エネルギートランスフォーメーション）を一体で推進

DXの取組状況

幅広い業界における産業知見と、ネットワークを活かした当社らしいDXを促進

DXによるフードロス削減や、物流効率改善に伴うCO2削減等を通じEXと一体で推進

産業DX推進

- NTTグループと、DXサービスを提供する“Industry One”を設立
両社の強みである産業知見とICT技術を集約し、日本の産業界のDX促進を目指す

電力・リテイルDX推進

- 中部電力グループと“中部電力ミライズコネクト”を設立
地域に深く根差した顧客基盤とデジタル技術を活用したマーケティングにより、暮らしやライフイベントに最適なサービスを提案

上記以外にも60件以上のDX案件を検討・推進中

EXの取組状況

2050年カーボンニュートラル社会の実現を念頭に今年度中に当社らしい最適解を提示

次の3つの観点での取組を通じて、産業界の持続的競争力向上と環境課題解決の両立を実現

Avoid

GHG排出を回避する再エネ等の設備・事業の新規開発

- 洋上風力・水力等の再エネ発電事業の取組強化
・再エネ発電容量：2019→2030年度 倍増を目指す

Reduce

火力等の既存設備・事業におけるGHG排出量の削減

- 火力発電事業のダイベストメント目標を設定
・当社既存火力発電容量の削減及びゼロエミ火力への切替で2050年迄に非化石比率100%を目指す
- エネルギー安定供給と低炭素・ゼロエミ火力への移行に貢献
・アンモニア・水素も含めた次世代エネルギーサプライチェーン構築等

Remove

残存する排出GHGのニュートラル化

- CCU/CCSの利活用などによるカーボンニュートラル化への取組強化